

希望

この手に

沖縄の貧困・子どものいま

第3部⑮

神奈川県立田奈高の図書館カフェ「びっかりカフェ」でウクレレを生徒に教えるNPO法人パノラマの石井正宏理事長=5月26日、横浜市青葉区の同校



神奈川県立田奈高 ⑮

い、中退防止や生活支援などに尽力している。談笑する女子、ソファに寝そべり漫画を読む男子。毎週木曜日に関われるカフェの日は、図書館がくつろぎのスペースに変わる。机に並ぶジュースや駄菓子は無料だ。生徒は自由にお菓子をつまみながら思い思いの時間を過ごす。全校生徒674人で、カフェ

フェを訪れた女子3人組が、ファッション誌をめくりながらアイドルやモデルの話で盛り上がりつつあった。「お茶飲む？」と、声を掛け、ポラントニア職員が女子の輪に入っ「最近バイトはどう？」の質問に、1人が「ほぼ毎日。社畜だし」と返す。日常会話の中から、生徒が直面する問題が浮かび上がる。「あの子は虫歯が多いけど、意味がある。そうすれば社会へ出て周りの大人といい関係を築けることができ、悩みを一人で抱え込まずに済む」引きこもり支援などで15年以上引継ぎを担った石井氏は、交流相談で得た情報はNP

図書館カフェで悩み・進路相談

低い敷居本音引き出す

のある日は100人以上が訪れる。提供する飲食物のほとんどは寄付で賄い、学校側の金銭的負担はない。SNSで積極的に情報を発信することで共感が広がり、寄付は全国各地から集まっている。「加藤シゲアキ君の記事どこ？」「玉城ティナってかわいいよね」テスト終わりにびっかりカ

NPO法人パノラマの石井正宏理事長(47)はカフェのマスターだ。この日は1人の女子にウクレレを教えていた。Tシャツの上にシャツを羽織り、ニット帽をかぶるラフな服装は、一目で教師でないことが分かる。親や教師といった上関係ではなく、「斜めの関係」から生徒と接している。「大人への期待感をつくるの楽譜もある。生徒から「マ

ツユリ」の愛称で親しまれる松田ユリ子司書が、生徒のリクエストを極力取り入れ、丹精を込めて居場所をつくり上げた。困難がある生徒もそうでない生徒も、誰もが来られる環境が下地にあることで、図書館が交流相談の場になっても敷居が上がることはなかった。石井氏は「何の目的がなくとも来られる環境が大事。スティグマ(偏見)を生まない支援が求められている」と語る。同校は進路指導や就労支援ではなく「自立支援」の観点で、職場の悩みを相談する卒業生も多い。浜崎美保副校長は「カフェは全国の学校に広まっているが、関古鳥が鳴くような所もある。生徒と向き合う土台が学校になければ、カフェの取り組みもうまくはいかない」と指摘した。(子どもの貧困取材班・稲福政俊)

(随時掲載)